

習近平が武器のコピーを批判

漢和防務評論 20160703 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国の武器開発に重大な変化の兆しが現れました。習近平が自国の武器開発方式を批判したからです。
その背景には、コピー戦闘機の品質の問題、或いは、ロシアとの交渉で再三再四違法コピーを指摘されたからでしょう。
指摘した内容は正論ですが、この 50 年間続けてきた姿勢を急に転換することは困難でしょう。

KDR 北京特電：

中国軍事工業界の消息筋は KDR に対し次のように述べた。習近平が国家主席就任後、軍事装備の開発に対する考え方に新たな動きが出てきた。中国軍事工業界は、最近「習近平の国防科技大学業務報告後の講話」の一文を学習した。習近平は、政権内部で、武器のコピーに明確に反対している。習は次のように強調している：コピー路線は近道ではあるが、軍事技術の中で真に核心（鍵）となる技術は、科学技術進歩への大きな努力と創造によるものであり、中国は国防科学技術の自主創造能力を大幅に高めなければならない、と。

この動きは、驚くべきことだ。瀋陽航空機会社のコピー戦闘機 J-16 及び J-11D の生産速度が明らかに遅れているのはこのためか？しかもこれと同時に J-20 ステルス機及び J-10A/B 戦闘機の生産は大幅に増えている？

江澤民及び胡錦濤の時代においては、全ての軍事工業関連談話をチェックしてみても、武器のコピーを批判する談話は無かった。これが中国独特の軍事装備品生産方式がずっと踏襲されてきた主な理由である。

このため、最近 2 年間、中国の航空及びミサイル工業は、明らかに技術的創造が求められており、“創新”（新機軸を打出すこと）が合言葉になっている。
”コピー路線は近道ではあるが（注：努力を惜しむ）”の言い方は、名指しはしな
いが實際上、瀋陽航空機会社を批判したものだ。過去 20 年間、中国がコピーした武器は沢山ある。典型的な武器は SU-27 戦闘機である。陸戦装備について、北方工業会社が基本的に導入したのは技術であって、コピーではない。
”近道ではあるが”の言い方は、習近平が”コピーでは、元の技術を超えられない”ことを知っていることを意味する。

しかし、**KDR** は次のように考える：中国の”武器コピー”問題は相当複雑であり、習近平が1度指示しただけで解決する問題ではない。国防科技の基礎教育、設計スタイル、設計師の頭脳が全て徹底的に”創新”されなければならない。頭脳の”創新”は最も困難である。しかもこの50年間の”コピーに慣れた態勢”に急ブレーキをかけることは不可能である、と。

しかし習近平の上述の講話は、重大な変化であると思われる。

以上